

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

(別紙4)

[認知症対応型共同生活介護用]

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年2月20日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0872000997		
法人名	医療法人社団 柴原医院		
事業所名	グループホーム つくしの森		
所在地	茨城県つくば市西高野842-4 (電話) 029-877-2940		
評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町1918 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成20年10月29日	評価確定日	平成21年2月20日

【情報提供票より】 (平成20年10月2日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成16年6月8日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤 3人, 非常勤 8人, 常勤換算	5.3人

### (2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨 造り		
	1 階建ての	～	1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	32,000 円	その他の経費(月額)	光熱費等 24,000円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	—
食材料費	朝食	250 円	昼食 400 円
	夕食	500 円	おやつ 150 円
	または1日当たり 円		

### (4) 利用者の概要(平成20年10月2日現在)

利用者人数	14 名	男性 3 名	女性 11 名
要介護1		要介護2	4 名
要介護3	6 名	要介護4	2 名
要介護5	2 名	要支援2	
年齢	平均 85 歳	最低 70 歳	最高 97 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	柴原医院、おおさわ歯科医院、稲葉歯科医院
---------	----------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

暖かい家族のように利用者一人ひとりの生活を尊重した楽しい生活環境づくりに努め、地域に開放されたホームとして地域交流フロアを設け、近隣の人々を行事に招待するなど交流を深めるとともに理念に基づいて実践に努めている。  
健康面では定期的な往診のほか医療機関にも相談でき、利用者や家族が安心して生活できる体制になっている。

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>終末期の方針は、家族の意向を確認できるようマニュアル化されている。職員の経験年数や資格に応じた研修を受講させ、資質の向上を図っている。地域の付き合いは、施設内の地域交流フロアを利用し具体化している。災害対策は、今年度地域の人々の協力を得て避難訓練を実施する予定である。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は職員の意見を聞き作成しているが、項目ごとに共通理解を図り日々の実践を振り返る機会にするまでには至っていないので、外部評価の目的や意義を全職員で理解し、外部評価をサービスの質の向上に活かすことを期待する。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は2ヶ月に1回家族代表や市職員の参加を得て開催し、ホームへの意見や要望などを話し合い、出た意見を地域との交流活動やサービスの質の向上に活かしている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>重要事項説明書に苦情相談窓口と第三者機関を明記し、利用契約時に説明している。 家族会を年1回開催し、意見や要望を汲みあげ介護計画や運営に活かしているが、今後家族会の開催回数を増やすよう検討している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入し地域と交流ができるよう努めている。 ホームの地域交流フロアを活用して地域の人々をホーム行事に招待し交流している。</p>

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの役割と利用者一人ひとりの生活を尊重した生活環境づくりを理念に掲げ実践に努めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は日々の支援を振り返るため申し送り時やミーティング時に話し合い、理念に基づいて実践している。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し地域と交流ができるよう努めている。 ホームの地域交流フロアを活用して地域の人々をホーム行事に招待し交流している。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員の意見を聞き作成しているが、項目ごとに共通理解を図り日々の実践を振り返る機会にするまでには至っていない。	○	外部評価の目的や意義を全職員で理解し、外部評価をサービスの質の向上に活かすことを期待する。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回家族代表や市職員の参加を得て開催し、ホームへの意見や要望などを話し合い、出た意見を地域との交流活動やサービスの質の向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市主催のグループホーム連絡会に加入し、サービス提供委員会などで事例を提供するとともに、話し合った内容をサービスの質の向上に活かしている。 市の担当者に利用者の入退所の状況報告をするほか、介護保険法や施設設備に関する情報を得ている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族に毎月ホーム便りを送付し、日々の暮らしや金銭管理の状況を報告している。 緊急時は電話連絡で報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情相談窓口と第三者機関を明記し、利用契約時に説明している。 家族会を年1回開催し、意見や要望を汲みあげ介護計画や運営に活かしているが、今後家族会の開催回数を増やすよう検討している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員は各ユニットに固定し、異動を最小限に抑えている。 また、職員は両ユニットの利用者を把握し、各ユニットの利用者が自由に往来できるよう体制を整えている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は経験年数や資格に応じた研修を受講し、他の職員に報告をして内容を共有している。 職種ごとに内部研修を開催している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡会に毎月1回施設長や職員3名が参加するとともに、職員の指導方法や介護技術についての勉強会を実施しサービスの質の向上に活かしている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホーム見学や体験入所の利用を勧めるほか、職員が自宅を訪問して利用者や家族が雰囲気になじめるよう工夫している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者一人ひとりの利用前の暮らしの情報に基づき、日々の生活のなかで趣味を生かしたり、畑仕事などを通して利用者から学ぶなど支え合う関係を築いている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者一人ひとりの思いや意向にそえるようセンター方式の記録に基づき、得られた情報から希望や意向を把握するよう努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用前の暮らしの情報の記録に基づき、介護計画を立て、実施した後の反応などを職員間で話し合い介護計画を作成している。 面会時に家族の意向を確認しているが、利用者や家族を交えての作成や説明には至っていない。	○	利用者や家族、職員で話し合うとともにチームケアのあり方についても理解を得たうえで介護計画を作成することを期待する。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月毎の定期見直しと利用者の状態の変化に即した見直しをしている。 また、月1回のミーティング時に利用者の生活状況について話し合っている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	協力医療機関と連携を図り月2回の往診を受け利用者の健康管理に留意している。 また、利用者の通院の送迎などは柔軟に対応している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用契約時にかかりつけ医の情報を得て通院支援を行うとともに家族等に利用者の状態報告をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けた方針を職員で話し合いマニュアルを作成している。 家族の意向を確認するとともに、状態に応じかかりつけ医や全職員で話し合い、利用者や家族の意向を取り入れながら対応している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の人格や生活歴を尊重した言葉かけや対応を心掛けながら支援している。 個人情報を漏洩しないよう職員に周知徹底している。 ノート記入式の面会簿を利用している。	○	面会等についてはプライバシーの確保に工夫することを期待する。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者に対する「ちょっとまって」の対応について職員間で話し合い、利用者一人ひとりのペースに合わせて支援している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立担当者は利用者の好みを確認し、食材の買出しや準備、後片付けなど利用者のできる範囲で一緒にしている。 職員は利用者と食卓を囲み、食後30分はその場で話をするなど食事を楽しむ工夫をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴前に体温や血圧を測定し、体調の確認を行ってから週2～3回の入浴支援をしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用前の暮らしの情報から趣味や楽しみごとを把握し、一人ひとりの力を生かす場面づくりや自由に生活できるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	地域への散歩や利用者の希望にそった買い物、観光スポットなどにドライブをしている。 リフト車での外出支援もしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関に鍵をかけないケアに取り組み、徘徊や外に出る利用者には職員が付き添い見守り支援をしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	区長を通して地区の消防団に協力を依頼し、年度内に地域の人々と合同の避難訓練を予定している。		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの摂取量を踏まえ、栄養バランスを考慮した献立作成に努めている。食事介助も必要に応じて支援している。また、水分は定期的に補給できるよう支援している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は広いスペースを確保しており、採光や照明、清潔感、消臭に配慮するほか季節の花や利用者の共同作品を飾っている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	一部の利用者は、好みの絵画や写真を飾ったり、仏壇等を持ち込んでいるが使い慣れたものが少なく、持込について家族等に十分働きかけるまでには至っていない。	○	利用者が使い慣れた物品で居心地良く生活できるよう家族に働きかけることを期待する。

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。